

みずほCustomer Desk Report 2019/11/20号 (As of 2019/11/19)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	108.55
TKY 9:00AM	108.67	1.1072	120.32	GBP/USD	1.2953
SYD-NY High	108.83	1.1084	120.47	AUD/USD	0.6805
SYD-NY Low	108.46	1.1063	120.01		
NY 5:00 PM	108.54	1.1079	120.24		
NY DOW	27,934.02	▲ 102.20	日本2年債	-0.210	0.00bp
NASDAQ	8,570.66	20.72	日本10年債	-0.100	▲ 1.00bp
S&P	3,120.18	▲ 1.85	米国2年債	1.5992	0.01bp
日経平均	23,292.65	▲ 124.11	米国5年債	1.6246	▲ 1.15bp
TOPIX	1,696.73	▲ 3.99	米国10年債	1.7852	▲ 2.92bp
シカゴ日経先物	23,250.00	▲ 150.00	独10年債	-0.3420	▲ 0.45bp
ロンドンFT	7,323.80	16.10	英10年債	0.7310	▲ 1.70bp
DAX	13,221.12	14.11	豪10年債	1.1225	▲ 3.55bp
ハンセン指数	27,093.80	412.71	USDJPY 1M Vol	5.39	0.04%
上海総合	2,933.99	24.79	USDJPY 3M Vol	5.75	▲ 0.04%
NY金	1,474.30	2.40	USDJPY 6M Vol	6.29	0.01%
WTI	55.25	▲ 1.80	USDJPY 1M 25RR	-1.05	Yen Call Over
CRB指数	177.16	▲ 2.02	EURJPY 3M Vol	6.38	0.01%
ドルインデックス	97.84	0.05	EURJPY 6M Vol	6.80	0.00%

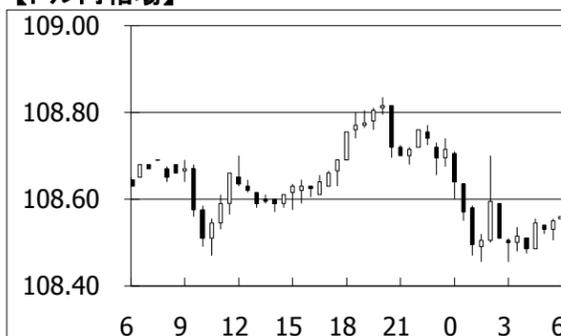
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
11月19日	22:30	米 住宅着工件数/建設許可件数	10月 1314k/1461k	1320k/1385k
	22:30	米 住宅着工件数/建設許可件数(前月比)	10月 3.8%/5.0%	5.1%/-0.4%
	23:00	米 ウィリアムズ・NY連銀総裁 講演	「米経済の現状は良好。」	
11月20日	03:00	加 ウィルキンス・カナダ中銀上級副総裁 講演	「金利は操作余地あり。」	

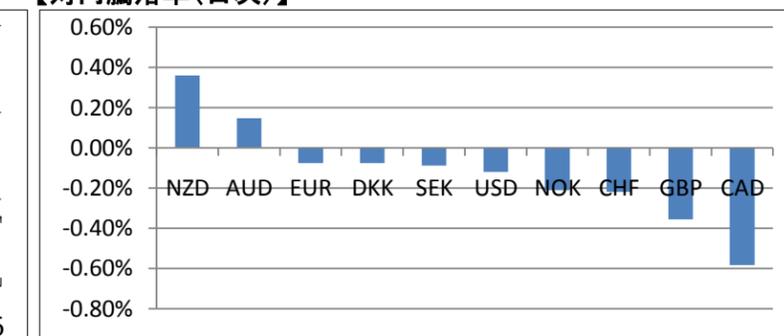
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
11月20日	08:50	日 貿易収支	10月 ¥229.3b	-¥124.8b
	16:00	独 PPI(前月比/前年比)	10月 0%/-0.4%	0.1%/-0.1%
	22:30	加 CPI(前年比)	10月 1.9%	1.9%
11月21日	02:00	加 レーン・カナダ中銀副総裁 講演	-	-
	04:00	米 FOMC議事要旨	10月 -	-

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



東京	東京時間のドル円は108.67レベルでオープン。オーストラリア準備銀行が公表した11月理事会議事録の要旨がハト派的な内容と受け止められ豪ドル円が下落し、ドル円も一時108.47まで下落した。その後は仲値にかけて実需のドル買いが優勢となり、米長期金利の反発とともに108.63まで上昇。午後からは材料乏しく上値重く108.60付近を中心とした狭いレンジ推移となり108.63レベルで海外時間に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、108.63レベルでオープン。東京時間からの流れを引き継ぎ米金利の上昇に合わせて、108.83まで上昇するも、金利上昇が一服すると上値を迫るには材料に乏しく、108.76でNYに渡った。ポンドドルは、1.2964レベルでオープン。一時1.2927まで下落するも、週末からのプレグジットへの楽観的な雰囲気から底堅い推移となり、1.2938レベルでNYへ渡った。(ロンドン・トルフリー 00531 444 179 永井)
ニューヨーク	昨日米中通商協議に対する中国側の悲観的な見方が強まっているとのヘッドラインが伝わったものの、海外市場では米金利上昇を受け、ドル円は108.83まで戻し、108.76レベルでNYオープン。朝方は米10月住宅着工件数が予想をやや下回ったものの、10月建設許可件数が予想を上回ったことからドル円の反応は限定的となるが、軟調な小売大手の決算発表を受け株式市場が軟調に推移する動きにドル円は108.46まで下落する。正午前になり、「米中通商協議は、今年5月の交渉時に決裂した内容を元に再交渉している」とのヘッドラインを受け、一旦108.70まで急伸するが、その後は交渉先行き不透明感から、再び108.46まで反落する。午後は、米下院で12/20期限の暫定予算が可決されたが、ドル円の反応は殆どなく、狭いレンジでの推移が続き、108.54レベルでクロスした。一方、海外市場のユーロドルは、1.1070を挟んだ方向感のない推移が続き、1.1075レベルでNYオープン。朝方はドル売りが優勢となり1.1084まで戻すものの、1.1100では売り意欲が強いとの見方から1.1072まで反落する。午後は1.1080を挟んだ狭いレンジでの推移が続き、1.1079レベルでクロスした。(NY井上)

【マーケット・インプレッション】 チリの反政府デモとチリペソの動向

チリペソは10月中旬から現在にかけて約7%下落しており、一時は1ドル=800ペソ台の史上最安値水準まで下落した。この大幅下落の要因は反政府デモ活動の長期化である。きっかけは公共交通機関の値上げに対する反発であったが、100万人規模の緊縮策反対デモに発展。政府は閣僚刷新や社会保障拡充、憲法改正等に応じる姿勢を見せてはいるが、事態収拾にはいたっていない。同国財務相は、ペソ安は懸念すべき兆候だと指摘、数週間におよぶストや抗議デモ、公共交通の混乱などで、経済に30億ドルの打撃が及んでいるとの見方を示した。一方で中央銀行総裁は、ペソ安にも関わらず、財政状況は安定的との見方を示した。

チリは1970年代初めより他の中南米諸国に先駆け、民間主導の開放経済を開始した。その後1980年代初めの債務危機を克服し持続的成長を達成させたことから、中南米の「優等生」と評されてきた。その経済発展は銅産業が中心となって行われてきており、銅産業はチリのGDPの約10%、輸出の半分を占めている。そのため、世界的な銅価格の変動が国内経済に影響を与えやすく、その影響の緩和策として銅価格が高い好景気局面では財政支出を抑制して財政資金を蓄えたり、公的債務を抑制する一方、銅価格の下落・景気後退局面では、財政支出を拡大することで景気を下支えする、安定的な財政運営を目指してきた。こうした運営により、過去の金融危機の際も、温存していた財政余力によって、景気刺激策を行うことができた。今回においても中銀総裁の声明の通り一定程度の財政余力は確保されているものと考えられる。チリペソ安が今後も進行するとすれば、その要因は財政面の問題というよりは、反政府デモの継続による政情不安、その他南米諸国の政治的混迷・経済低迷、最大貿易相手国の中国の経済失速等によるところが大きいだろう。(高根)

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
ペア	ペア	ブル	ブル	ペア	ブル	ペア	ブル	ブル	ブル
岡本	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	谷舗
ブル	ブル	ペア	ペア	ブル	ペア	ブル	ブル	ペア	ペア
								ブル	ペア
								11	9

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 高根・上地 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682